

第3学年 社会科 単元名「私たちと政治」

1. 目標

- 住民の権利や義務に関連させて、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識を高める。
【社会的事象への関心・意欲・態度】
- 町づくり計画の具体例を構想し、その過程や結果を表現するとともに適切な具体策を判断・選択する。
【社会的な思考・判断・表現】
- 諸資料から情報を適切に選択、分析して自分の考えの根拠として活用する。【資料活用能力】
- 地方自治の基本的な考え方や地方公共団体の政治の仕組みについて理解する。
【社会的事象についての知識・理解】

2. 指導計画（9時間扱い）

見通す	①時	私たちの生活と地方自治・・・地方自治がどのように行われているかを理解する。
	②時	地方自治の仕組み・・・国政と地方自治の仕組みの違いを把握し、地方自治の特徴を捉える。
	③時	地方財政の仕組みと課題・・・地方財政は、どのような課題を抱えているかを考察する。
	④時	住民参加の拡大と私たち・・・直接請求権などの制度を理解し、地域の課題を考察する。
取組む	⑤時	町づくり事業計画① 情報の収集と読み取り・・・富士見市の課題について、情報収集を行う。
	⑥時	町づくり事業計画② 考察・表現・・・富士見市の課題を考察した上で、発表原稿を作成する。
	⑦時	町づくり事業計画③ クラス意見交換会・・・班毎に発表（意見交換会）を実施する。
	⑧時	町づくり事業計画④ 学年意見交換会・・・クラスの代表者が発表（意見交換会）を実施する。 発表に対する講評を「市の担当者」から受ける。
振り返る		←学び合いの例
	⑨時	町づくり事業計画⑤ レポートの完成・・・本単元を振り返りながら、自分の考えをまとめる。

3. 第⑧時について

- 目標 ・富士見市に関する関心を高め、政治に主体的に参加する態度を養う。【関心・意欲・態度】
- ・富士見市の施策について、多面的・多角的に考察し、適切に表現する。【思考・判断・表現】

見通す	活動①	前時までの復習と本時の学習活動の確認を行う。クラスで出した富士見市の課題を振り返らせ、各グループの施策発表の意識付けとする。
	活動②	4つのグループの発表を行う。発表の際は、発表者に注目させ、発表後、ワークシートに「一番印象に残った言葉」や「質問・感想」などを記入させる。
取組む	活動③	4つのグループの発表後、聴衆からの質問に答える。意見交換が積極的になるように、司会（教師）が生徒へ声をかけて、発表者と聴衆との間を取り持っていく。
	活動④	4つのグループの発表を聞き、どのグループが「20年後もみんなが住み続けたい魅力ある富士見市」に迫れる発表だったかを各自で選ぶ。根拠を示しながら理由を書く。
	活動⑤	ゲストティーチャー（市の担当者）に指導・講評をもらう。将来、主権者として政治（選挙）に積極的に参加していけるように促す。
振り返る	活動⑥	本時の復習と次時の学習活動の確認をする。何人かに、授業の感想やどのグループが「20年後もみんなが住み続けたい魅力ある富士見市」に迫れる発表だったかを聞く。

4. 学び合いの例について

【活動②～④】：ワークシートの工夫

(手だて) ① ワークシートに「単元を貫く課題」を提示

本時の学習の流れを確認し、課題を明確にするために、黒板やワークシートに「本時のねらい」を提示することは、とても重要である。今回の学年意見交換会では、「単元を貫く課題」として、「20年後もみんなが住み続けたい魅力ある富士見市にしていこう」と設定し、地元の富士見市をテーマとして取り上げることににより、生徒に関心を持たせ、学習意欲を高めていけるようにした。

(手だて) ② 簡潔に、短時間で書ける、授業内容に合ったワークシートの工夫

自力解決する時間を確保し、自分の考えを持たせるため、グループ発表後に1分間、ワークシートを記入する時間を設定した。「一番印象に残った言葉」や「質問・感想」などを一言（キーワード）で書けるようにワークシートの記入欄を工夫し、発表の際は、発表者に注目して話をよく聞けるようにした。



【活動②～⑤】：学習形態の工夫

(手だて) ① 発表者と聴衆による学び合い

発表者は、自分が考えたことを自分の言葉で聴衆に伝え、聴衆は、発表者の意見をよく聞くことが質の高い質問に繋がり、思考の深まりを促す。前時に、生徒全員がクラスで班毎に自分の考えを発表していることで、自分の考えと発表者の考えを比較・検討しながら、発表をよく聞くことができた。

(手だて) ② 周りにいる仲間との学び合い

4つのグループの発表後、周りにいる仲間と意見交換を行う時間を設定した。自分の考えを自分の言葉で相手に伝えることにより自分の考えがより深まったり、仲間の意見を聞くことにより、新たな気づきがあったりすることで、自分の考えをよりよい方向へ変容させることができた。

(手だて) ③ ゲストティーチャー(市の担当者)を招聘しての学年全体での発表(意見交換会)の実施

単元の学習が始まる時に、ゲストティーチャー(市の担当者)に来校してもらい、自分たちで調べてもわからないことが質問できたり、自分たちが考えた政策について聞いてもらえたりすることを伝えたことにより、生徒の関心が高まり、熱心に学習に取り組むことができた。当日の学年意見交換会では、生徒の質問や考えた政策について、市の担当者から誠心誠意、説明や返答を頂いたり、主権者として政治(選挙)に積極的に参加していけるようにお話を頂き、生徒たちにとって、とても貴重な経験となった。



単元名「私たちと政治」

取組のワンポイントアドバイス



こうすればうまくいくよ！
実践にあたり工夫したところ・子供たちの変容の様子を教えます。

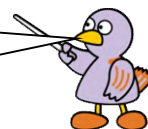
「学び合い」を授業に取り入れていくに当たって、2つのことをポイントとして、実践していきました。

1つ目は、「個で学ぶ」→「学び合い」→「個でまとめる」という基本的な授業の流れを意識して、本時の授業を計画していくということです。「学び合い」をするためには、まず、自分の考えをきちんと持たなければなりません。そして、「学び合い」によって何が新たにわかったのかをまとめる時間をきちんと確保しなければなりません。「活動あって学びなし」にならないように、何に、どれだけ取り組むか、時間の使い方を考えながら、授業を進めていくようにしました。

2つ目は、単元計画で「学び合い」をどこで行うかを事前によく考えておくということです。毎時間、「学び合い」を行うことは難しく、授業進度の遅れにも繋がります。本単元では、第7時「クラス意見交換会」や第8時「学年意見交換会」のところで「学び合い」を行えば最も有効であると考えて、実践していきました。

最初は、どのように話し合いを進めればよいのか、生徒も分からず話し合いがうまく進まないことが多かったのですが、「話し方」や「話し合いの社会的な視点」を教えたり、「話し合いを行う際の役割分担」などを決めて継続的に実践していくことにより、話し合いがうまく進められるようになりました。

授業を行うにあたって、工夫したところや苦労したところ。また、校内で共通理解する上での工夫や大変だったところ。



本単元では、地元の富士見市を取り上げる際に、「子育て(教育)」・「産業振興」・「高齢化(福祉)」・「防災・安全」とテーマを4つに分け、生徒の関心があるテーマを班毎に選ばせることにしました。自分たちが関心あるテーマを選ぶことにより、『家の近くに街灯が少なくて暗い』や『地域を活性化できるようなイベントをもっと開催して欲しい』など、様々な意見が出て、活発な話し合いを行うことができました。

また、校内で研究協議を行う際には、生徒の学習の様子(学習しぐさ)を付箋に記入し、KJ法的な手法を使って分類して、教科の枠を越えた研究協議が行えるようにしました。他教科の授業を見ても専門的な内容が分からず研究協議が深まらなかったところを、教師の発問に対して、生徒がどのように反応して学習に取り組んでいるかで研究協議を行うことにより、研究協議の活性化を図ることができました。